

入賞

一般建築物の部

建築主：株式会社市原ゴルフ倶楽部
設計：株式会社大林組一級建築士事務所
施工：株式会社大林組
所在地：市原市奉免855番地

～高度な建築技術と環境が合体したクラブハウス～

市原ゴルフクラブ市原コースクラブハウス

市原市にある「市原ゴルフクラブ」に建て替えられたS造（一部鋼・木ハイブリッド梁）のクラブハウス（建築面積：4,450.43㎡、延床面積：3,722.93㎡、地上1階）である。かつて山頂であった立地特性を生かして、「独創的な印象に残る新たな風景の創造」が建て替えのテーマに掲げられた。そして、かつての山の稜線をなぞるような形態の柔らかな3次曲面による大きな一枚屋根を葺き、カーテンウォールのガラス面による開放性が訴求された。そのコース側にあたる外装は、ハイブリッド梁によって「自然と共にあるクラブハウス体験」ができる垂直面を提供している。



かつての山の稜線をなぞり、独創的な風景を創る大らかな1枚屋根

設計者が生み出した以上の建築構成は、ゴルフクラブハウスとしてユニークかつ魅力的である。ただし、カーテンウォールの高度に技術的な気密性の高い収まりに象徴されるように、もっと自然換気方式を取り入れるなど、施設の性格からして、視覚的な自然との繋がりだけではない建築のあり方を求め

ても良かったのではないだろうか、審査の過程でそのような意見もあった。

（岩村 和夫）



待合ラウンジよりレストランを見る

（撮影全て/エスエス 走出直道）

入賞

住宅の部

建築主：相川 美咲
設計：KtM（神成建築計画事務所＋MIU建築工房）
施工：有限会社 島田建設
所在地：習志野市谷津

～音楽を街に広げる楽器のような音楽スタジオ～

谷津の音楽小屋 Atelier Musica

タイトルの通り音楽を奏するためこの建築は存在する。建築音響学の視点に立てば、フラッターエコーの回避だけではなく、残響時間・明瞭度・包まれ感など、音響シミュレーション等を設計時に行い、音の質感を綿密に検討するべきではないかと考えてしまうが、この作品のアプローチは全く異っている。

この作品には物語があり、依頼主が主に演奏する楽器であるフルートが、頭部管・胴部管・足部管と3分割構成であること、演奏する際に身体の3点支持で持つこと（さらには演奏者の方が3姉妹であること）など、3という数字につながる事柄の多さから、三角を基本形状としてその組合せで空間構成を行う手法が用いられている。大変興味深いのは、基本形状を決定した後、建設途中に室内で演奏をして、その響きを利用



上部から俯瞰する全景、三角形を基本とする3つの屋根から構成されている

用者と作り手が共に確認しながら、垂木の設置位置を調整する事であった。この小屋を楽器のごとく、直接音や反射音などのバランスを考えながらチューニングしていく斬新な音響調整手法である。完成した空間で演奏を聴いてみると、音楽小屋は見事にフルートから生み出される音と一体となり、美しいメロディーを奏でていた。音圧を感じるほどの迫力のある響きや緊張感のある繊細なタッチまで表現され、豊かな音楽に抱かれるようであった。

そして、小学生の通学路でもある前の通りを通る際も、音楽が優しくもれ聞こえてきて、日常の風景をととても豊かにしていた。長く地域に愛される音楽小屋となるだろう。（加藤 未佳）



構造表しで垂木をランダムに配置した内部演奏空間
（撮影全て/中村 絵）